

## 埼玉県支部のあゆみ

### 全国友の会結成（1976年）

1976年11月、愛媛、神奈川、東京の一都、二県、531名。

### 埼玉県友の会の誕生（1984年）

1984年3月10日、全国友の会に遅れること7年後に埼玉県に患者会が結成されました。地域的、グループ的な数人の女性たちの集いが主体になったと云われていますが、設立の経緯など詳細は不明です。

規約施行日の1984年3月10日をもって「埼玉県内におけるパーキンソン病友の会誕生の日」と定めてきました。

### 「埼玉県支部」の認知（1989年）

1989年（平成元年）に埼玉県の景勝地・嵐山で第13回本部総会が開催されました。まだ組織的支部になってない埼玉で全国総会が開かれた背景には組織拡大策として各県の支部づくりに力を入れていた本部の働きかけがあったものと思われます。ここで「埼玉県支部」が正式に認知されました。この時の会員は40名であったと云われています。

本部側からみると14番目の県組織でした。

1989年という年は、昭和から平成へ、消費税導入など時代の大きな節目の年でした。この嵐山総会を契機に馬場さんを支部長とする、馬場執行体制はこれ以後全国の会長に就任し、さらに翌年県支部長を辞任するまで7年間続きました。

### 馬場富雄氏の功績

埼玉県の支部長になった馬場富雄さんは1995年第4代本部会長に就任。本部会長として手掛けた主な事業は次の通り。

1996年5月：本部の20周年記念大会を熊本で開催。

1999年10月：第2回アジア・太平洋パーキンソン病国際シンポジウムを浦安市で開催。

2000年11月：国会請願、署名活動を会独自で行う。

2001年11月：25周年記念の集いの開催（東京）

2002年3月：厚生科学審議会疾病対策部会難病対策委員会で意見陳述。

### 支部の活動

本部の会長になった馬場さんの後を受けて1996年から森田治さんが支部長職を引き継ぎました。

同氏は馬場さんの路線を引き継ぎ、2002年に支部長職を鈴木裕作氏に譲るまで支部の先頭に立って会の充実、発展に努めました。

1998年6月第22回全国総会が大宮市で開催されました。この年難病治療費の一部患者負担制度が導入されるという重要な時期だっただけに内外の関心も高く、大会の様子がマスコミ等で広く伝えられたこともあって大きな反響を呼びました。

馬場さんの後、森田治氏（1996年～2002年）、鈴木裕作氏（2002年～2003年）、江口勝氏（2003年～2007年？）、永池宏洋氏（2007年～2009年）と支部長が引き継がれ、このころ

になると支部の主な活動は安定期を迎え、その活動は現在にまで続けられてさらに充実、発展を続けています。その中からいくつか拾ってみます

#### ○ 会報

支部発足と同時に「支部だより」を創刊し年2回発行しています。総会や交流会、医療講演会の内容等を会員に届ける一方で会員の病状、生活状況を掲載したこの会報は会員の心の拠り所として特に外出がままならない会員にとって大きな絆になっています。

『会報は会の顔』という気持ちで名称も「支部だより」→「ニュースレター埼玉」→「彩」と換えながら、現在年4回の発行を行っています。

#### ○ 保健所の「難病患者家族のつどい」の広がり

保健所では難病対策の一環として「難病患者家族の集い」を開催していますが、この集いは会員にとっても身近な場所で身近な患者同士が忌憚なく集まれることから人気が高く、主催の保健所に指導を受けながら自発的運営の機運が高まっています。

#### ○ 医療講演会・医療相談会

自分の病気を科学的・医学的に正しく理解し、主治医とのコミュニケーションがスムーズに出来ることを期待して毎年春と秋の総会・例会で著名な医師をお招きして講演を依頼していますが常に好評です。

#### ○中でも特筆すべき活動は、2007年に起きた国会での「パーキンソン病」と「潰瘍性大腸炎」が患者数の多さを理由に特定疾患から除外する動きに対して初めて街頭署名活動で抵抗し、成功したことです。

#### ○熊谷地域の交流会では日常のパーキンソン病の生活から離れた音楽鑑賞を初めて取り入れるとともに健常者にも気楽に参加してもらいました。

#### 『同憂の為に、動ける人が動けるうちに』

先人が築き上げた埼玉県パーキンソン病友の会を充実・発展させるためには役員を増やし自身の病状に変化が生じたときも安心してその仕事を譲れるような体制で臨めるようにしていきたい。

同憂の為に役員になってくれませんか。

【同憂の為に 動ける人が 動けるうちに！】